



2026 年 2 月 6 日

各 位

会 社 名 株式会社東京自働機械製作所
代表者名 代表取締役社長 佐 藤 康 公
(コード番号 6360 東証スタンダード)
問合せ先 上席執行役員管理本部長兼総務部長
本 城 和 彦
(TEL 03-3866-7171)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、中長期的な企業価値向上と持続的な成長を実現するべく、現状の分析・評価や取り組みの進捗状況等を踏まえ、内容をアップデートいたしましたので、お知らせいたします。

なお、詳細につきましては、添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について（アップデート）」をご参照ください。

以 上

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について (アップデート)

証券コード 6360

株式会社東京自動機械製作所

2026年 2月 6日

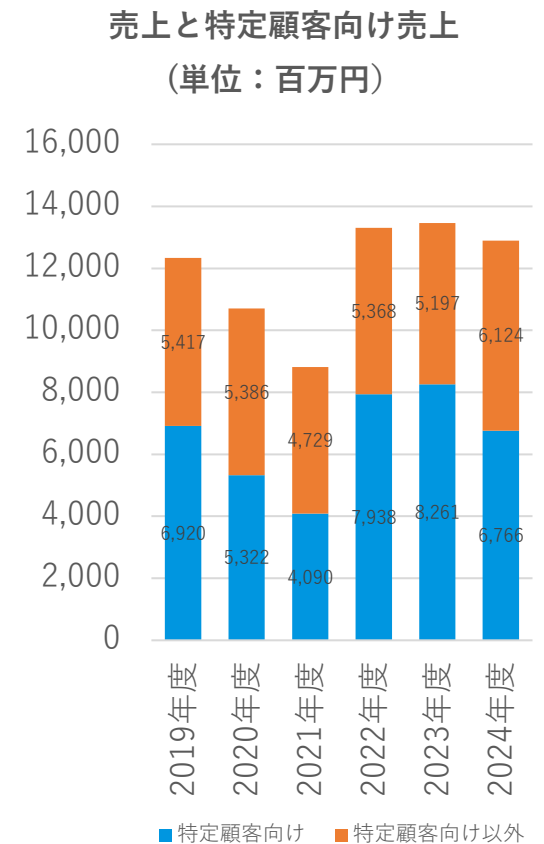
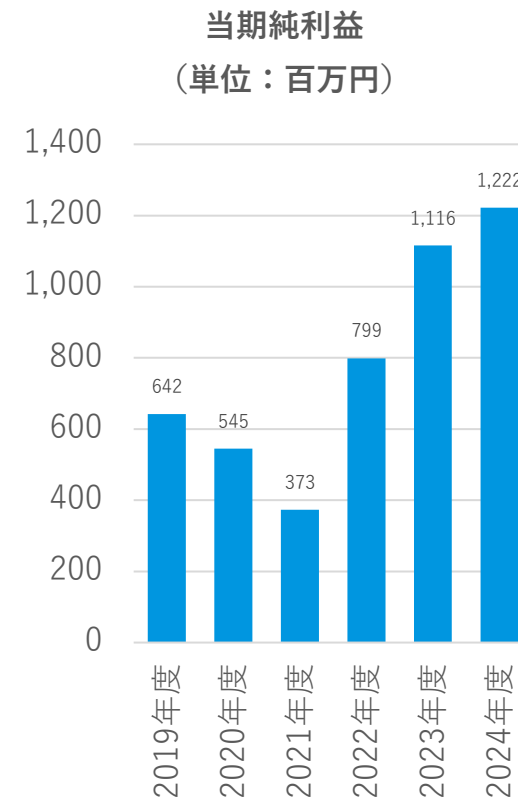
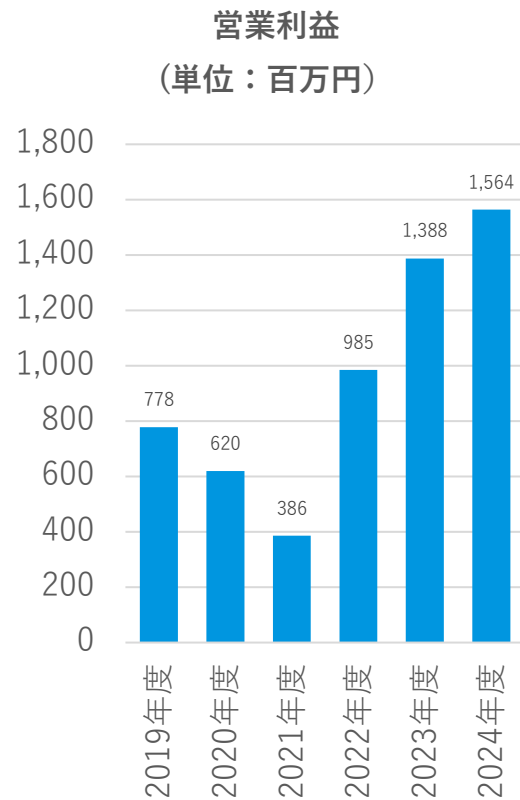
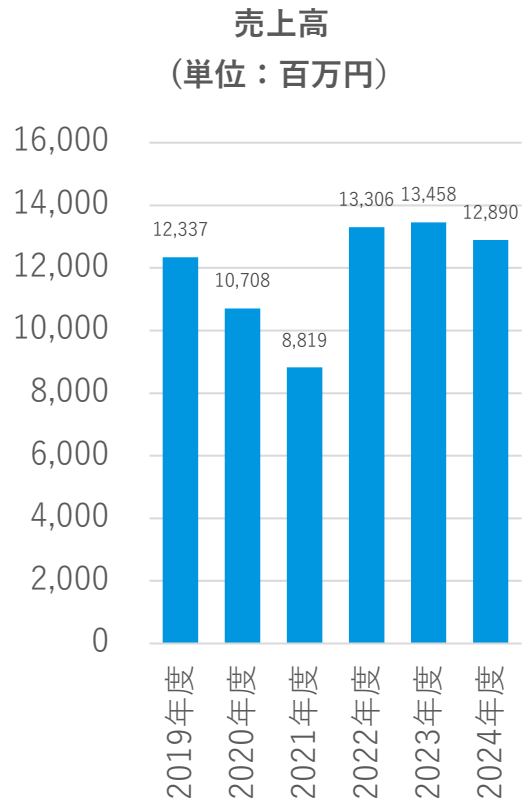


1. 現状分析・評価

			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
業績	売上	百万円	12,337	10,708	8,819	13,306	13,458	12,890
	営業利益	百万円	778	620	386	985	1,388	1,564
	当期純利益	百万円	642	545	373	799	1,116	1,222
資本収益性	1株当たり純利益	円	458.80	389.35	266.79	571.14	797.47	871.48
	1株当たり純資産	円	3,424.68	3,942.41	4,085.29	4,769.63	5,767.46	6,724.78
	ROE（自己資本利益率）	%	14.00	10.57	6.65	12.90	15.14	13.96
株主還元	配当額	円	50	40	40	60	120	240
	配当性向	%	10.9	10.3	15.0	10.5	15.0	27.5
市場評価	期末株価	円	1,385	1,779	1,544	1,910	2,921	3,620
	PBR	倍	0.40	0.45	0.37	0.40	0.50	0.53
	PER	倍	3.01	4.56	5.78	3.34	3.66	4.15

現状評価（業績）

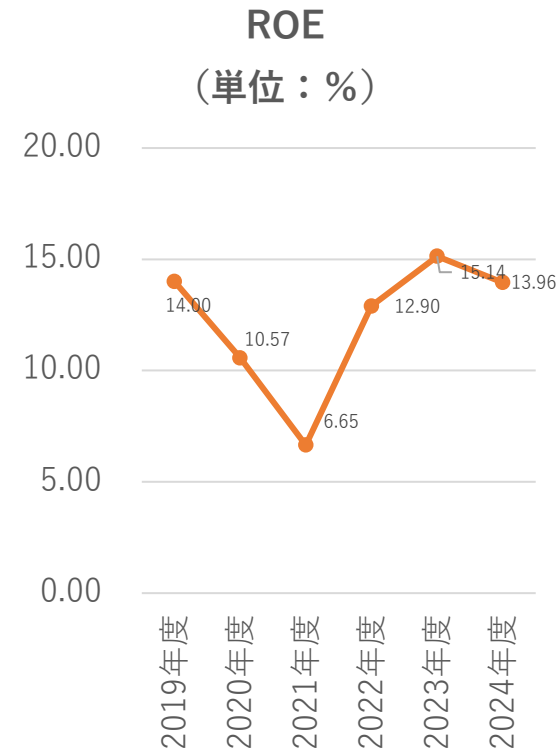
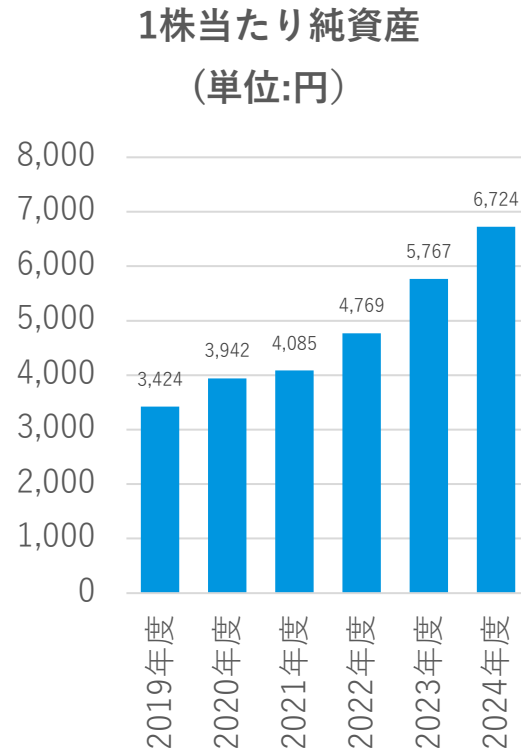
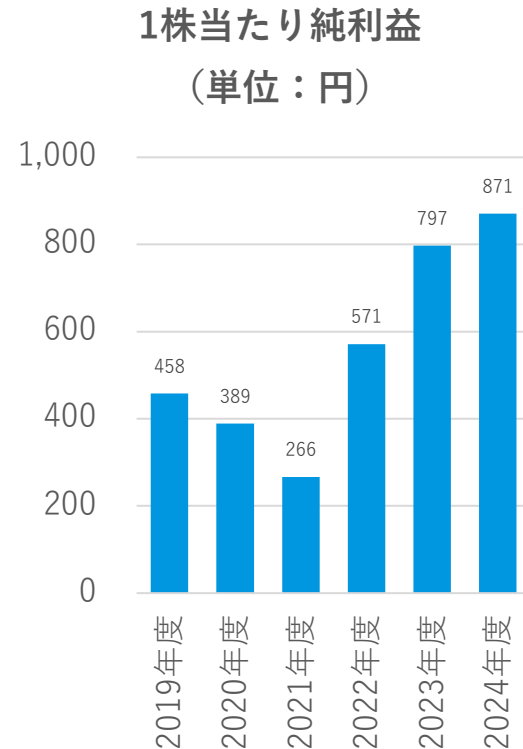
売上、利益はコロナ禍の影響により一時減少したが、**成長している**。しかし、その内訳をみると生産機械事業の**特定顧客向けの売上に偏っている**。



現状評価（資本収益性）

過去6年間のROE(自己資本利益率) はコロナ禍の影響が大きい2021年度を除き**概ね10%以上**であり、想定している**株主資本コストを上回る水準**。

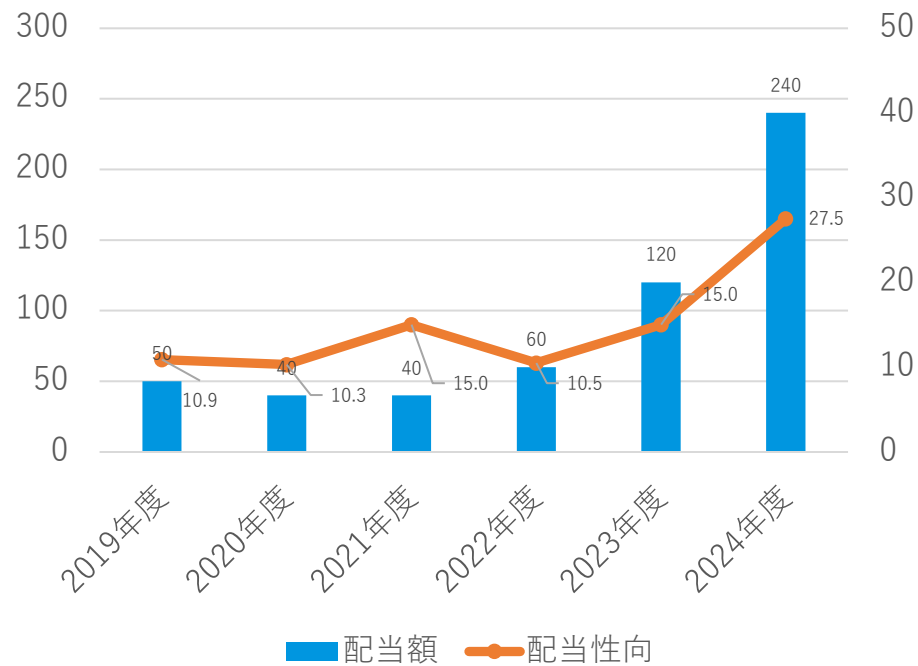
※当社の想定している資本コストは資本資産評価モデル（CAPM）を用いて算定。



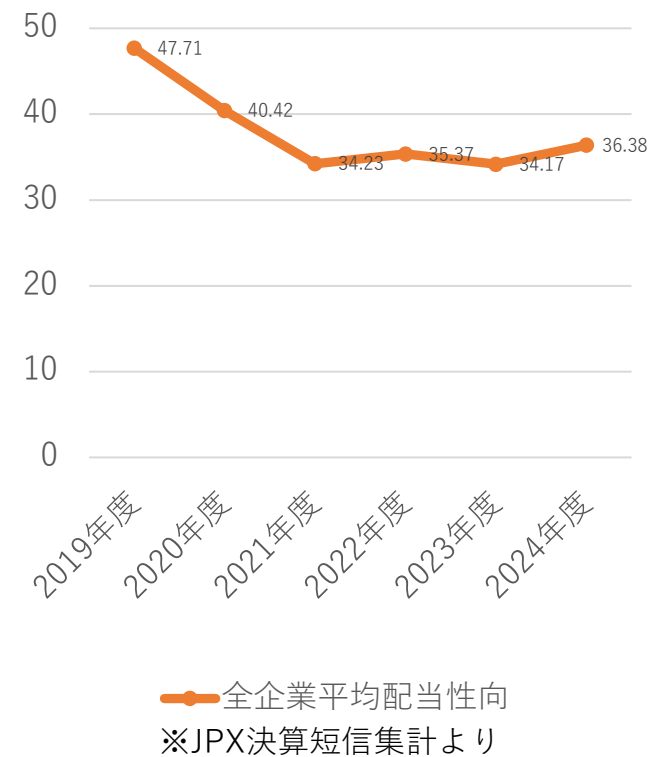
現状評価（株主還元）

利益還元に関する基本方針を見直し、2024年度から1株当たりの配当額を**配当性向 30%**を目安とするよう変更した。

1株当たり配当額と配当性向
(単位：円、%)



全上場企業の配当性向の平均
(単位：%)

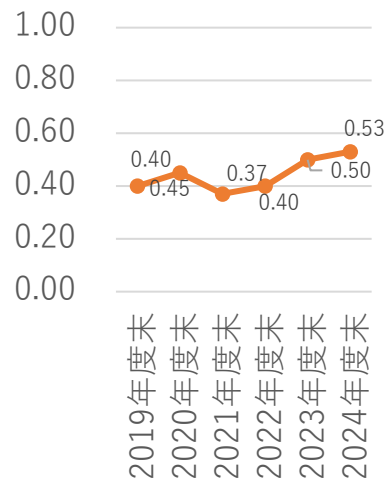


配当方針を変更することにより株価は上昇したが、**PBR（株価純資産倍率）は依然低く**、投資家や株主の皆様から十分な評価を得られていない。

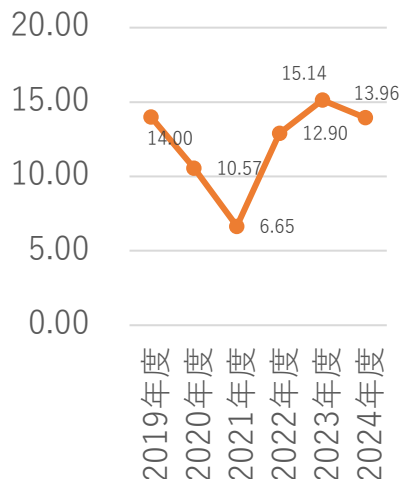
PBRを分解すると

$$\text{PBR} = \text{ROE} \times \text{PER}$$

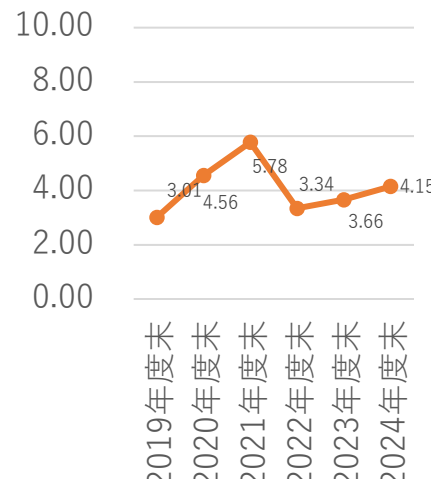
PBR（単位：倍）



ROE（単位：%）



PER（単位：倍）



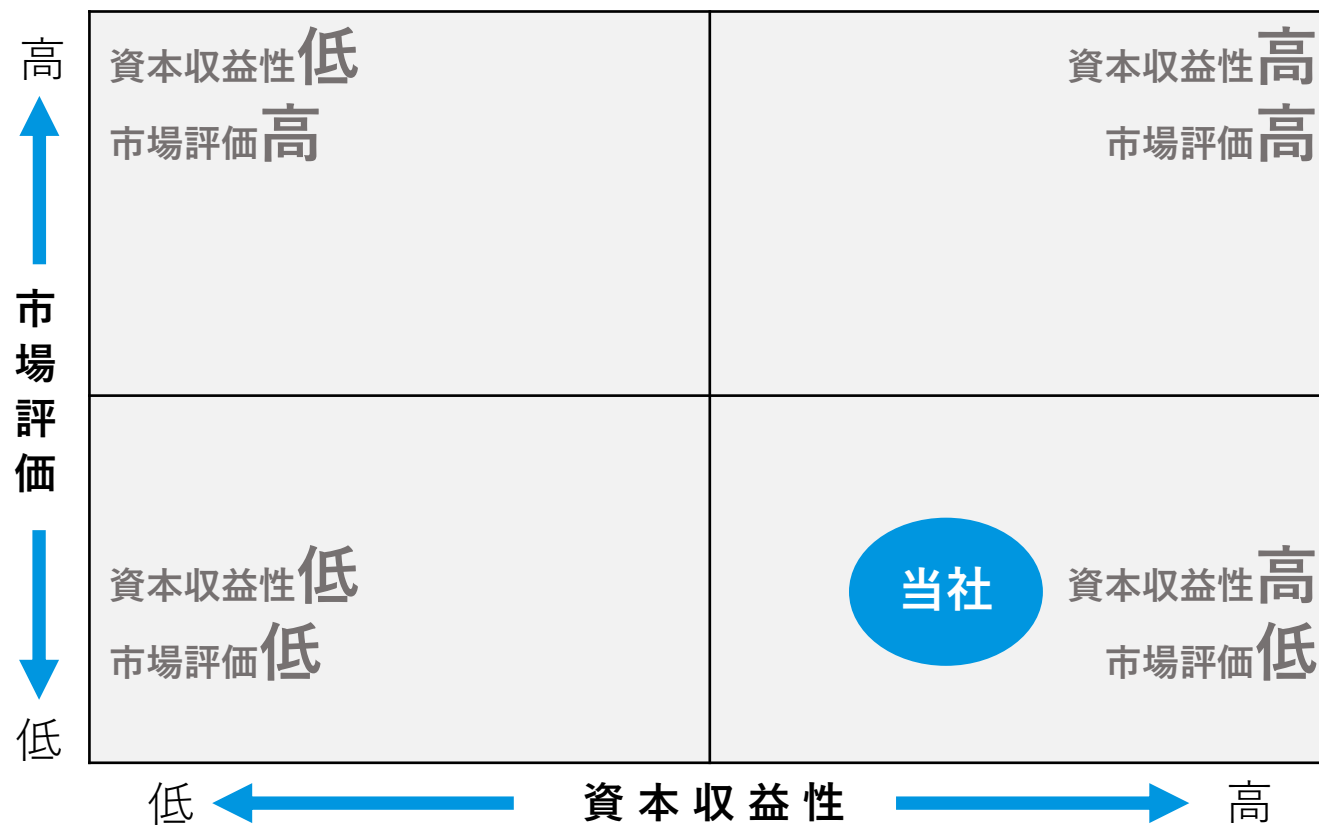
ROEは株主資本コストと比べて高い状況であると想定できるが、**PERは低い**水準で推移。

※スタンダード市場平均PER
17.0倍（2025年12月時点）

JPX規模別・業種別PER・PBR一覧より

現状評価（まとめ）

資本収益性については高い成績を上げているが**市場の評価が低い**状態が続いている。



●生産機械事業の特定取引先への売上比率が高いため、その設備投資動向により業績が大きく変動する。

●業績の安定を目指して強化している包装機械事業について、事業の成長性および生産機械事業も含めた当社の技術の基盤であることを、十分に伝えられていない。

2. 改善に向けた方針

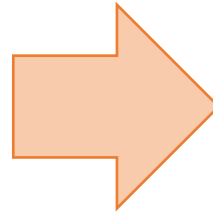
目標	指標の改善	改善に向けた方針	具体的な取組み
PBR1倍超 <u>企業価値向上</u>	ROEの安定	資本収益性を意識した経営	目標とするROE設定と資本政策の実施
		中期経営計画の着実な実行	包装機械事業の売上高拡大 持続的な成長のための投資
	PERの向上	株主還元の強化	配当方針の見直し
		IR活動の強化	サステナビリティに関する取組みの積極的な開示 各種媒体を活用した情報発信の強化

3. 具体的な取組み

資本収益性を意識した経営

安定して**ROE8%超**を達成する。

当社のROEは近年10%超で推移している。



特定のお客様の設備計画の一時的な集中が要因

経営上の**リスク**であり**不安定な状況**

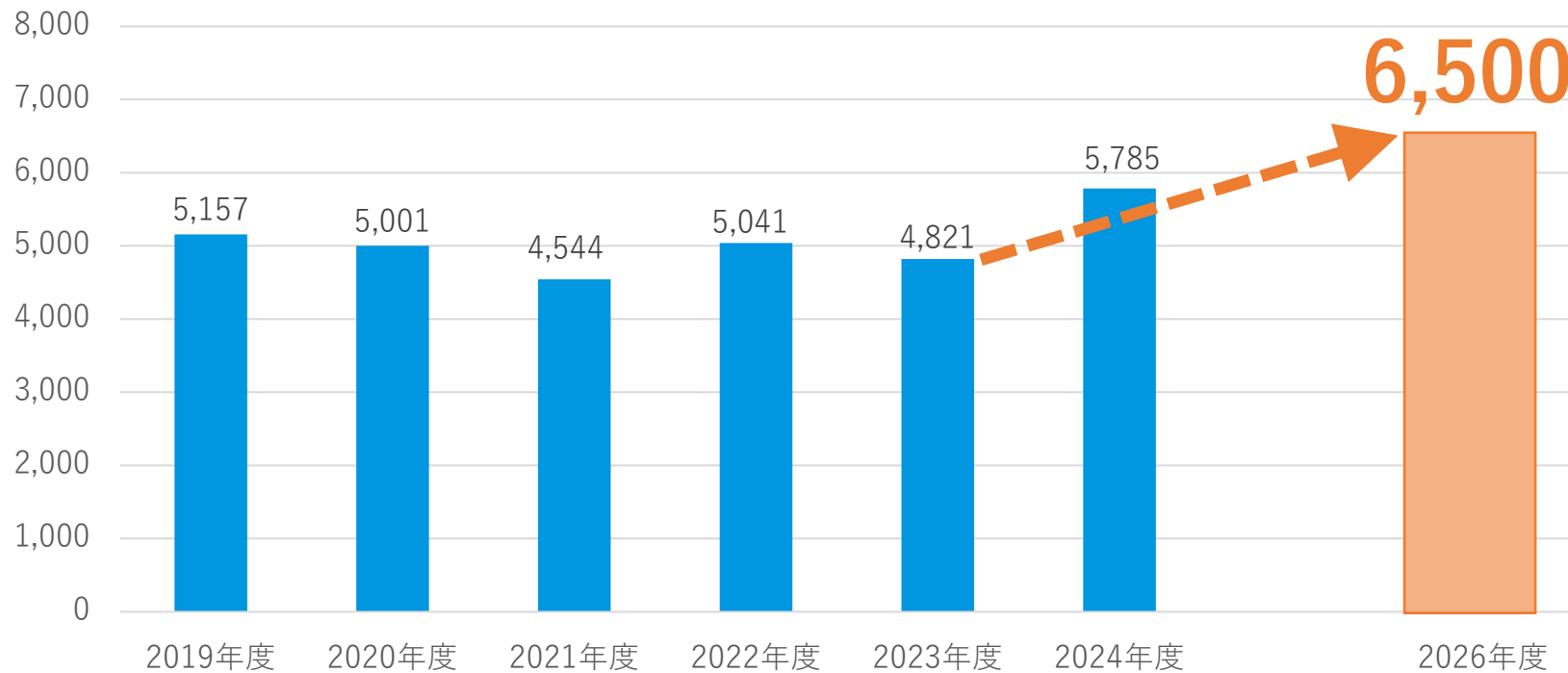


安定して**ROE8%が達成できる**売上構成に

中期経営計画の着実な実行

包装機械事業の売上高を2026年度に**65億円超に拡大**
当社の事業ポートフォリオにおける包装機械事業の割合を高めていく。

包装機械事業の売上高（単位：百万円）

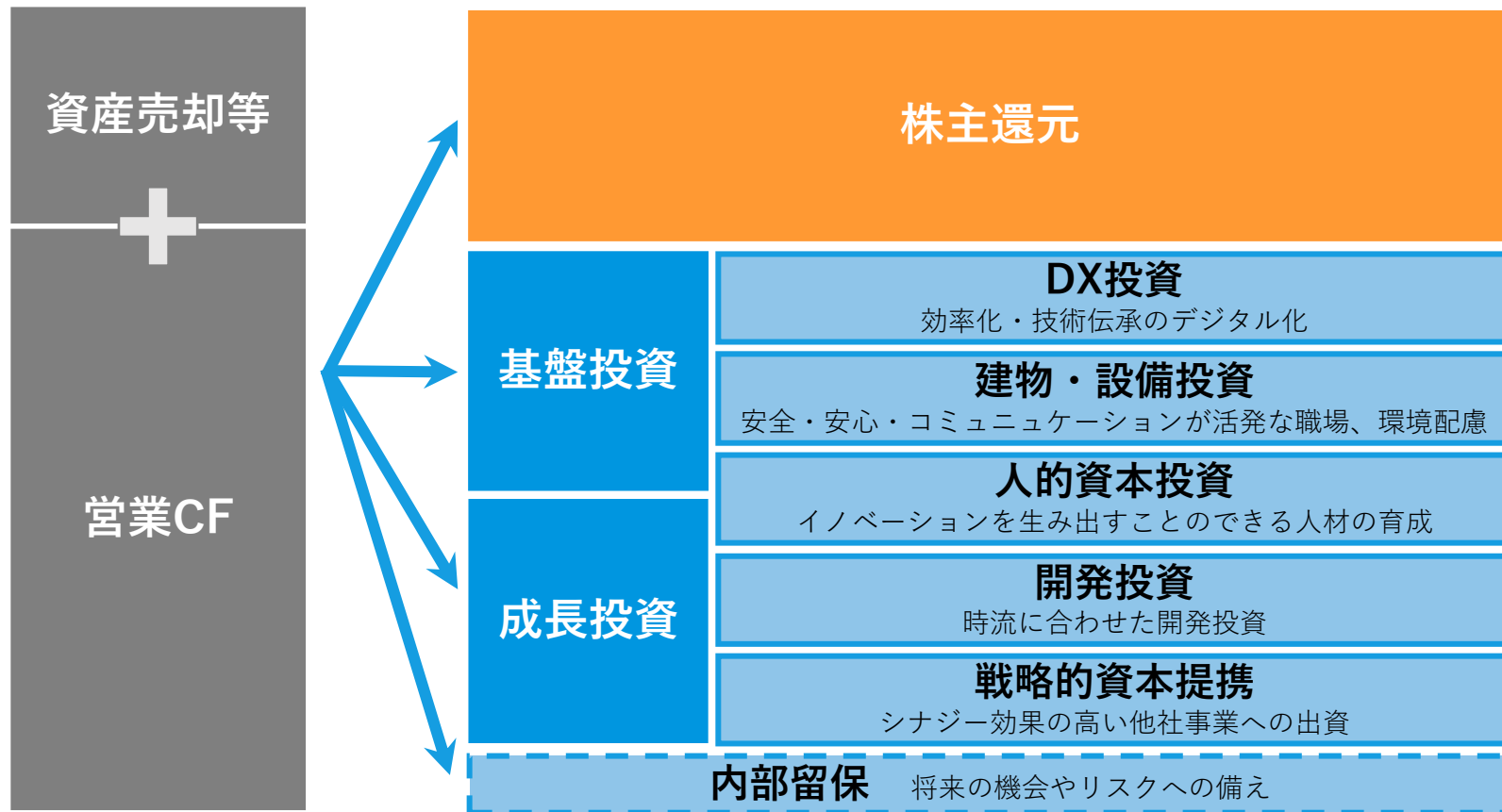


■ 包装機械事業の売上高

各分野の売上拡大と
新製品投入による
事業領域の拡大に
より2023年度比で
30%拡大

中期経営計画の着実な実行

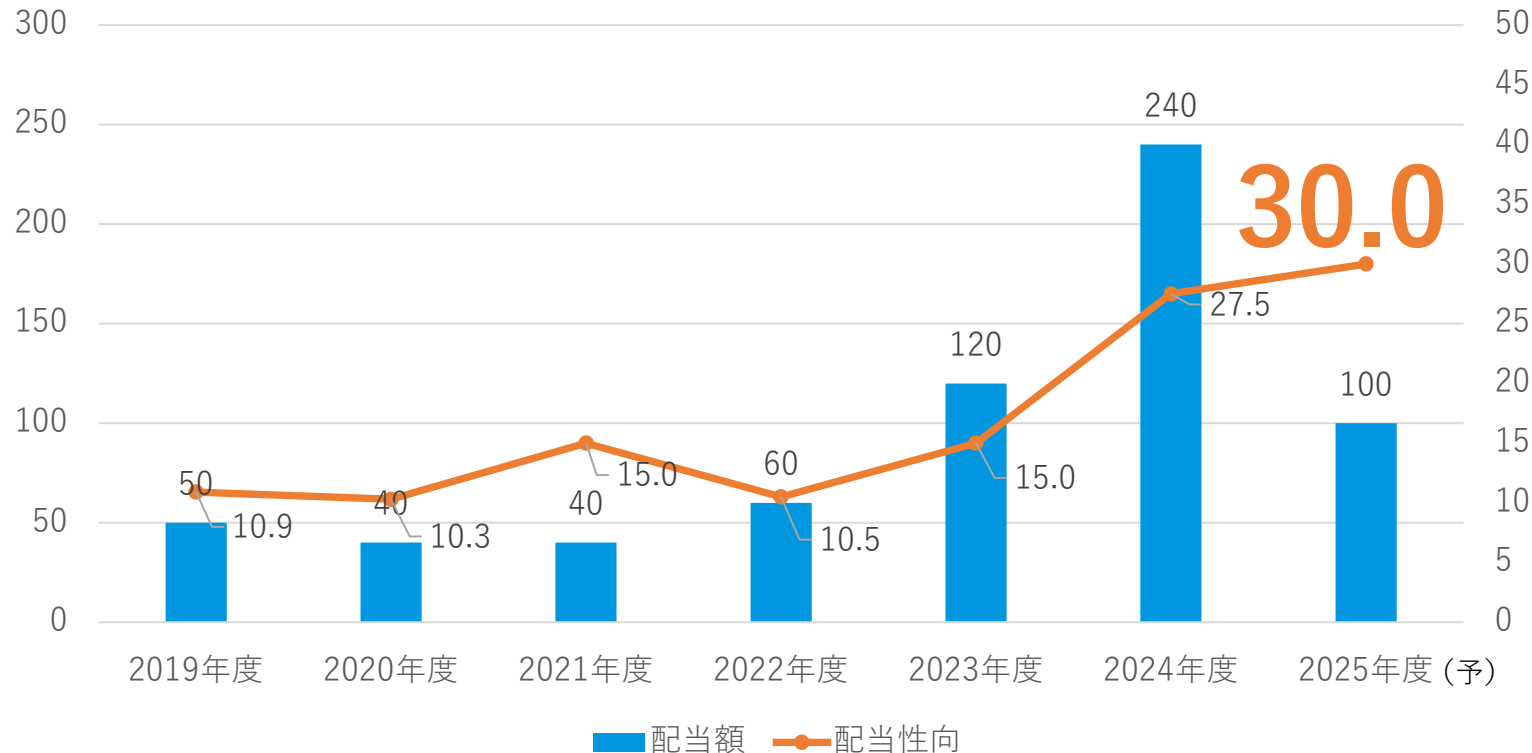
持続的な成長のために**投資**すると同時に、持続的な企業価値向上のため、投資と利益還元のバランスを見直す。



持続的な成長を実現するために
資本効率の高い投資を行う。

配当性向30%を目安とし業績に応じ適切に還元

1株当たり配当額と配当性向（単位：円、％）



事業の特性から業績の変動があるため、安定配当を堅持してきたが、2024年度以後は配当を安定的に継続しつつ
業績に配当額を連動

サステナビリティに関する取組みを**積極的に開示**

サステナビリティ基本方針に基づき特定した4つのマテリアリティに関する取組みを**継続してPR**

01 地球環境への配慮



事業を通じて与える地球環境に対する悪影響を低減し、脱炭素・循環型社会に対応する持続可能な新しい価値を創造することを目指します。

02 事業を通じた社会への貢献



「安全」「安心」「高品質」かつ「生産・流通でのロス低減」を可能とする製品の提供を通じて、お客様の企業価値向上と社会課題の解決に貢献します。また、社会から必要とされる企業であり続けるために、地域貢献に取り組みます。

03 誰もが自分らしく能力を発揮できる職場



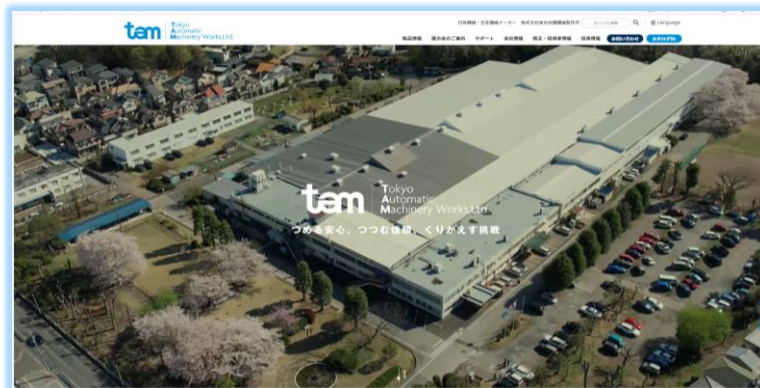
多様な個性と価値観が尊重され、誰もが受け継がれた技術や高めた能力を最大限に発揮し、イノベーションを生み出すことができる職場を築きます。

04 経営基盤の強化



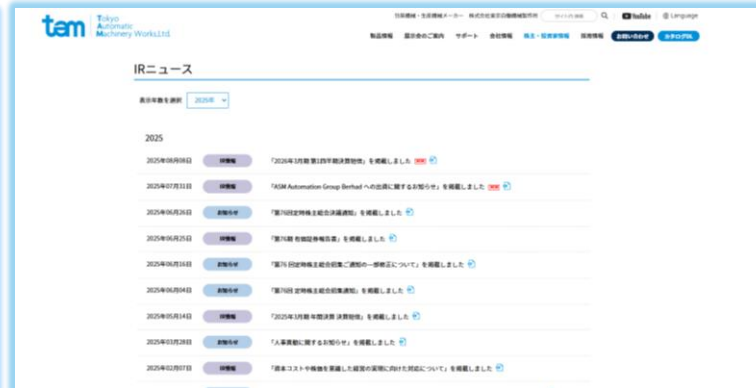
コンプライアンスの徹底およびコーポレート・ガバナンスの充実を通じ、経営の健全性、透明性を確保するとともに、会社を取り巻く様々なリスクに対するレジリエンスを高め、経営基盤を強化します。

ホームページ等を活用し、積極的に情報を発信



当社ホームページで IR情報発信強化

管理本部を中心に、
株主・投資家の皆様
との対話に対応



IRニュース

発表日時	内容
2025年08月08日	「2024年度第3四半期決算発表結果」を掲載しました。 詳細を見る
2024年07月12日	「TAM Automation Group Berhad への出資に関するお知らせ」を掲載しました。 詳細を見る
2025年06月26日	「第79回定時株主総会決議事項」を掲載しました。 詳細を見る
2025年06月25日	「第79回 有価証券報告書」を掲載しました。 詳細を見る
2025年06月14日	「第79回定時株主総会決議事項の概要について」を掲載しました。 詳細を見る
2025年06月04日	「第79回 定時株主総会決議事項」を掲載しました。 詳細を見る
2025年05月14日	「2024年度中期決算発表結果」を掲載しました。 詳細を見る
2025年03月28日	「人事異動に関するお知らせ」を掲載しました。 詳細を見る
2025年02月07日	「資本コストや税制を考慮した最適な償還方法について」を掲載しました。 詳細を見る

当社ホームページ⇒ <https://www.tam-tokyo.co.jp/>